

## 大阪就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム事業実施計画

### 1 趣旨

いわゆる就職氷河期世代(概ね平成5年～平成16年に学校卒業期を迎えた世代を指す。)は、現在30代半ばから40代半ばに至っている。

これらの世代は、雇用環境が厳しい時期に就職活動を行った世代であり、その中には、希望する就職ができず、現在も不本意ながら不安定な仕事に就いている、無業の状態にある、社会参加に向けた支援を必要とする状態にあるなど、様々な課題に直面している方がいる。

このように、就職氷河期世代への支援は喫緊の課題であることから、「経済財政運営と改革の基本方針2019」(令和元年6月21日閣議決定。)において就職氷河期世代の活躍促進に向けて3年間の集中的な支援に取り組む方針が打ち出された。さらに「経済財政運営と改革の基本方針2022」(令和4年6月7日閣議決定。)において、令和4年度までの3年間の集中取組期間を「第一ステージ」と捉え、令和5年度からの2年間の「第二ステージ」と位置付け、これまでの施策の効果も検証の上、効果的・効率的な支援を実施し、成果を積み上げる旨の方針が定められた。

この方針に向けた施策の具体化を図るため、「就職氷河期世代支援の推進に関する新行動計画2023」(令和4年12月27日付け就職氷河期世代支援の推進に関する関係府省会議決定。以下「行動計画」という。)が策定されたところである。

大阪府においては、大阪府域の関係機関を構成員として、府内の就職氷河期世代の活躍支援策の取りまとめ、進捗管理等を統括する「大阪就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム」(以下「大阪PF」という。)を設置した。

については、大阪就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム事業実施計画(以下「大阪PF計画」という。)を策定し、就職氷河期世代の方々の実態やニーズに沿った必要な支援を行うこととし、各界一体となった当該世代の支援に関する気運を醸成し、就職・正社員化の実現、多様な社会参加の実現につなげ、活躍の機会が広がるよう継続的な取組みを推進することとする。

### 2 大阪PF計画実施期間

令和5年5月26日(本計画策定日)～令和7年3月31日

### 3 大阪PF計画の推進体制及び進捗管理

大阪PF計画の推進にあたっては、大阪PF設置要領に基づき推進する。

大阪PF計画の着実かつ効果的な推進を図るため、個々の取組や進捗状況を大阪PFとりまとめ事務局において把握及び管理を行い、大阪PF設置要領の5に規定する会議を開催し、公表する。

なお、その進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画内容を見直すこともあり得る。

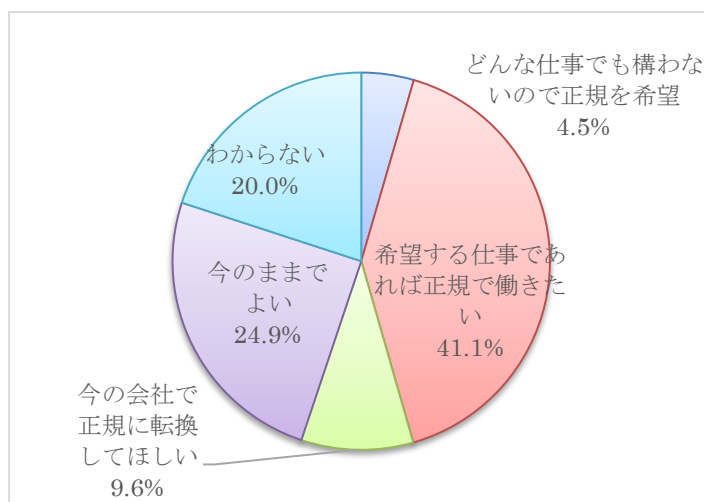
#### 4 就職氷河期世代に係る大阪府の現状

##### (1) 不安定な就労状態にある方

「不安定な就労状態にある方」（35歳～44歳）のうち、不本意に非正規雇用で働いている方は、全国で約54万人、大阪府においては、約3万6千人と推計される。（※1）

大阪府がインターネットで行ったアンケート調査（※2）では、不安定就労をしている方のうち半数以上の方が、正規雇用を希望しており、正規雇用に対する意向は、「自分の希望する仕事であれば転職（就職したい）」が4割程度と一番多い。

##### 【正規雇用の意向】

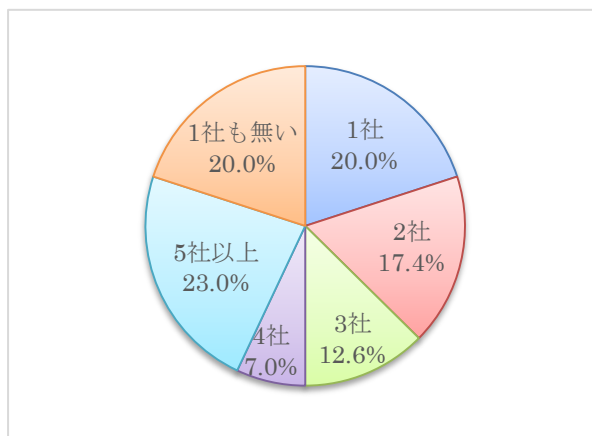


##### (2) 就業を希望しながら長期にわたり無業の状態にある方

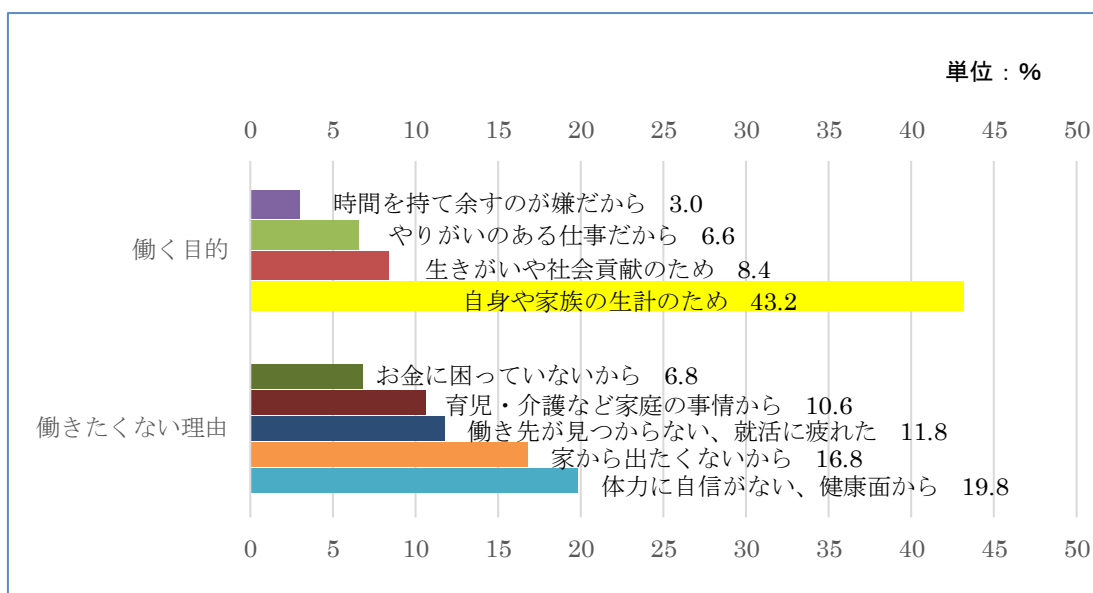
「長期にわたり無業の状態にある方」（35歳～44歳）は、全国で約40万人、大阪府においては、約3万7千人と推計される。（※1）

大阪府がインターネットで行ったアンケート調査（※2）では、無業の状態にある方のうち、「これまでに勤務した会社数が1社以下（無し含む）」が4割を占め、働く目的は、「自身や家族の生計のため」が4割と一番多く、働きたくない理由は、「体力に自信がない、健康面」が一番多い。

##### 【これまでに勤務した会社数】



### 【働く目的、働きたくない理由】



### (3) 社会参加に向けた支援を必要とする方

社会とのつながりをつくり、社会参加に向けたより丁寧な支援を必要とする方については、主に、ひきこもりの状態にある方が想定される。

内閣府の調査（生活状況に関する調査（平成30年度））結果において、40歳以上64歳以下の広義のひきこもり状態（※3）にある方は全国で約61万3千人に上る（推計）。これを人口比（※4）で換算すると、大阪府の40歳以上64歳以下の広義のひきこもりの状態にある方は、約4万3千人と推計される。

※1 総務省「就業構造基本統計調査（2017年）」

JILPT「若年者の就業状況・キャリア・職業能力開発の現状③」

「不安定な就労状態にある方」：現在非正規雇用で働いており、かつ、現在の雇用形態に就いている理由について「主に正規の職員・従業員の仕事がないから」と答えた方

「長期にわたり無業の状態にある方」：無業者のうち求職活動をしていない方で、卒業者かつ通学していず、配偶者なしで家事を行っていない方

- ※2 令和元年度大阪府実施調査「大阪府における就職氷河期世代支援策のあり方検討のためのインターネット調査業務」報告書。35～49歳、2,000人（非正規雇用1,500人、無業500人）を対象者として実施。
- ※3 「生活状況に関する調査」において定義。
- ※4 「生活状況に関する調査」の推計に使用された、総務省「人口推計（平成30年）の全国（1億2,644万3千人）と大阪府（881万3千人）の総人口比。

## 5 大阪PF計画における目標及びKPI

上記4に係る方を支援対象者とし、支援対象者ごとに、目標及びKPI（※5）を以下のとおり設定する。

※5 KPIとは、Key Performance Indicatorの略で、重要業績評価指標のこと。目標への進捗を把握するための指標として設定。

### (1) 不安定な就労状態にある方

#### ア 目標

正規雇用者を、令和6年度末までで20,400人（※6）増やすことを目標とする。

※6 35～44歳の不安定な就労状態にある方のうち、不本意に非正規雇用で働いている方が全国で約54万人おり、大阪府では約3万6千人（全体の6.8%）となることから、全国目標の30万人の6.8%である20,400人とした。

#### イ KPI（※7）

- ・ハローワーク紹介における正社員就職件数 18,400件（1年間平均9,200件）
- ・キャリアアップ助成金活用による正社員転換人数 10,580人（1年間平均5,290件）
- ・職業訓練あっせん数 18,340件（1年間平均9,170件）（※8）

※7 （1）アの目標を超えるKPIの設定については、就職後の離職等も勘案したものとする。

※8 全年齢層での目標。

(2) 就業を希望しながら長期にわたり無業の状態にある方

ア 目標

当事者やご家族の希望に応じ、求職活動へ踏み出すための支援を行い、大阪府内の地域若者サポートステーション（以下「サポステ」という。）を中心に関係機関が連携し、就労その他の職業的自立支援につなげることを目指す。

イ K P I（※9）

・サポステの支援により就労等につながった件数 680件（1年間平均340件）

・サポステにおける相談件数 30,540件（1年間平均15,270件）

※9 サポステの対象年齢は15歳から49歳。対象全年齢層での目標。

(3) 社会参加に向けた支援を必要とする方

ア 目標

市町村における居場所の整備その他、当事者の状態に合わせた支援を行うための多様な取組を推進し、社会とのより太いつながりが生まれることを目指す。

イ K P I

以下の府内市町村の取組を促進

・市町村の相談支援体制の充実

・生活困窮者自立支援制度就労準備支援事業の全福祉事務所設置自治体での実施

・居場所をはじめとする多様な社会参加の場の確保

・地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制の構築

6 大阪P Fにおける取組事項

社会気運の醸成及び就職氷河期世代、一人ひとりにつながる積極的な広報

(1) 社会気運の醸成【全構成員】

就職氷河期世代に対する採用・処遇改善や社会参加への支援に関する気運を醸成するため、構成員が連携して以下の事項に取り組む。

・大阪P F構成員が実施する各種取組等の周知

・事業主向けセミナー、就職面接会の実施

(2) 積極的な広報に向けた取組【全構成員】

ご本人やそのご家族、関係者に対して安定就職・社会参加の途を社会全体で用意・応援しているというメッセージをあらゆる機会、ツールを活用して積極的に発信する。

・構成員の機関誌、ホームページ、インターネット、SNS等を活用

した周知広報

- ・市町村と連携した支援メニューの周知（市町村広報紙や回覧板等の活用）

## 7 各構成員の取組事項

### (1) 安定就職に向けた取組（不安定な就労状態にある方）

#### ア ハローワークにおける各種支援の実施【大阪労働局】

- ・「35歳からのキャリアアップコーナー（就職氷河期世代支援窓口）」を設置し、担当者によるチーム支援を実施
- ・担当者制個別支援を中心としたキャリアコンサルティングの実施
- ・生活設計面の相談
- ・就職面接会・説明会の開催
- ・各種セミナーの開催
- ・必要な能力開発施策へのあっせん
- ・就職氷河期世代限定求人・歓迎求人及び職場実習等の受け入れに理解のある企業の開拓に関する各種取組
- ・就職後の定着支援

#### イ 就職氷河期世代を対象とした助成金の活用促進【大阪労働局】

#### ウ OSAKAしごとフィールドにおける各種支援の実施【大阪府】

- ・支援対象者の現状やニーズの把握、分析
- ・スキルアップセミナーの開催
- ・キャリアカウンセリングの実施

#### エ しごと情報ひろば（天下茶屋・西淀川・平野・クレオ大阪西マザーズ）における各種支援の実施【大阪市】

- ・キャリアカウンセリング、就労相談の実施
- ・求人企業情報の提供や、国の各種支援メニューへの誘導
- ・就職支援セミナーの開催
- ・合同企業説明会の開催
- ・市立男女共同参画センター（クレオ大阪）への巡回就労相談の実施
- ・個別ニーズに応じた求人開拓

#### オ さかいJOBステーションや公益財団法人堺市就労支援協会（ジョブシップさかい）等における各種支援の実施【堺市】

- ・キャリアカウンセリング、就労相談の実施
- ・就職支援セミナーの開催
- ・求人企業情報の提供
- ・企業説明会や企業と求職者の交流会の開催
- ・職業能力開発講座の開催
- ・個別ニーズに応じた求人開拓

カ 職業訓練の実施【大阪労働局、大阪府、高齢・障害・求職者雇用支援機構】

・公共職業訓練、求職者支援制度（就職氷河期世代支援プログラムに基づく訓練コースの設定含む）における職業訓練の実施

キ 建設キャリアアップシステムを活用した人材育成（特別講習の実施）及び建設キャリアアップシステム普及に向けた説明会の実施【近畿地方整備局】

ク 大阪府トラック協会を通じた運輸業界へのトラックドライバー等の就労支援【近畿運輸局、大阪府トラック協会】

ケ 就職氷河期世代特化型合同企業説明会及び企業向けセミナーの開催【近畿経済産業局】

コ 大阪福祉人材支援センターにおける各種支援の実施【大阪府社会福祉協議会】

・「福祉のお仕事」サイトを活用した職業紹介・就労相談の実施

・福祉・介護の現場を体験できる「職場体験事業」の実施

・福祉の就職フェアや面接会・各種セミナーの実施

・「介護・福祉応援貸付金」「保育士応援貸付金」の実施（資格取得や復職に必要な費用の無利子での貸付け）

(2) 就職実現に向けた基盤整備に資する取組（就業を希望しながら長期にわたり無業の状態にある方）

上記（1）の取組に併せ、以下の取組を行う。

・サポステの取組強化。福祉施策とのワンストップ型支援や福祉機関等へのアウトリーチ展開の強化により、支援対象者を把握し、働きかけ、支援を行う体制を整備【大阪労働局】

・大阪市地域就労支援センターにおける就労相談等の寄り添い型支援、職業紹介の実施【大阪市】

・区役所への巡回就労相談の実施【大阪市】

・堺市ユースサポートセンター（堺サポステ）におけるキャリア開発プログラム、心理カウンセリング、保護者セミナー、訪問支援事業等の実施【堺市】

・生活困窮者自立相談支援機関の就労支援員による支援、生活困窮者就労準備支援事業、生活困窮者認定就労訓練事業の実施【堺市】

(3) 社会参加実現に向けた取組（社会参加に向けた支援を必要とする方）（市町村の相談支援体制の充実）

・ひきこもり支援に関する相談窓口の明確化や広報を促す関わり等、ひきこもり相談を適切な支援へつなげる市町村体制の形成・拡充を促

#### 進する支援【大阪府】

- ・市町村に対し、ひきこもり支援や市町村プラットフォーム形成・活用に関する先進的な取組や好事例の周知【大阪府】

- ・市町村生活困窮者自立支援制度所管課への訪問による社会資源等の状況把握、意見交換、情報提供等の実施及び当該内容の市町村へのフィードバック【大阪府】

- ・生活困窮者自立支援制度所管課をはじめとする市町村の支援者等の資質向上のため、ひきこもり支援に関する研修の実施【大阪府】

(居場所をはじめとする多様な社会参加の場の確保)

- ・好事例や地域づくりのノウハウの情報提供等、多様な社会参加の場の確保に向け市町村を支援【大阪府】

(地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制の構築)

- ・包括的支援体制の構築に向け、相談支援包括化に関するニーズや課題、体制の構想等を聴取し、好事例の情報提供等、円滑な実施に向け支援【大阪府】

- ・堺市ユースサポートセンター（堺市子ども・若者総合相談センター）におけるひきこもり、ニートなど困難を抱える子ども・若者の支援の実施（利用者からの相談、グループ活動、就労準備講座の実施など）

- ・生活困窮者就労準備支援事業、生活困窮者認定就労訓練事業の実施【堺市】

#### 8 地域就職氷河期世代支援加速化交付金事業の実施【別表】

#### 9 市町村PFとの連携

大阪PFは、市町村PFにおける経済団体や他の市町村等とのつながり支援を行うとともに、市町村PFの好事例の周知等、必要な情報提供を行う。

附則 令和5年5月26日施行。



## 大阪就職氷河期世代支援プラットフォーム事業計画に係る目標及びKPI一覧

支援対象者区分		定量指標	
<b>1 不安定な就労状態にある方</b>		2年間 (令和5年度～令和6年度)	1年間
目標	令和6年度末までに正規雇用者を20,400人増やす	—	—
KPI	ハローワーク紹介による正社員就職件数 (昭和43年4月2日から昭和63年4月1日までの間に生まれた者)	<b>18,400件</b>	<b>9,200件</b>
	キャリアアップ助成金活用による正社員転換人数 (35歳以上)	<b>10,580人</b>	<b>5,290人</b>
	職業訓練受講あっせん数(※1)	<b>18,340人</b>	<b>9,170人</b>
<b>2 就業を希望しながら長期にわたり無業の状態にある方</b>		2年間 (令和5年度～令和6年度)	1年間
目標	当事者やご家族の希望に応じ、求職活動へ踏み出すための支援を行い、地域若者サポートステーションを中心に関係機関が連携し、就労その他職業的自立支援につなげることを目指す	—	—
KPI	サポステの支援により就労につながった件数(※2)	<b>680件</b>	<b>340件</b>
	サポステにおける相談件数(※2)	<b>30,540件</b>	<b>15,270件</b>
<b>3 社会参加に向けた支援を必要とする方</b>		2年間 (令和5年度～令和6年度)	1年間
目標	市町村における居場所の整備その他、当事者の状態に合わせた支援を行うための多様な取組を推進し、社会とのより太いつながりが生まれることを目指す	—	—
KPI	府内市町村の取組の促進	「市町村の相談支援体制の充実」の促進	—
	「生活困窮者自立支援制度就労準備支援事業の全福祉事務所設置自治体での実施」の促進	—	—
	「居場所をはじめとする多様な社会参加の場の確保」の促進	—	—
	「地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制の構築」の促進	—	—

※1 全年齢層での目標。

※2 サポステの対象年齢は15歳から39歳。令和2年度からは49歳上限で実施予定。全年齢層での目標。

【別 表】

地域就職氷河期世代支援加速化交付金事業一覧

(令和5年4月1日現在)

No	実施主体	事業名	事業の概要	計画期間
1	大阪府	就職氷河期世代集中支援プロジェクト事業	就職氷河期世代のうち、主に長期無業者の方を対象に、OSAKAしごとフィールドと連携し支援対象者の掘り起こし、就業に向けた研修、企業とのマッチングなどを一体的に支援。	令和5年度
2	泉佐野市	地域課題解決型就職氷河期世代就労支援事業	就労になんらかの困難を抱え、伴走型の支援を必要とする就職氷河期世代の方を対象に、支援区分に応じて段階的（対人スキルの取得から請負型就労体験まで）な支援を実施する。	令和5年度
3	枚方市	奨学金返還支援補助事業	就職氷河期世代を対象に奨学金返還支援を行い、社会参加や就労に向けた活動のネックとなる経済的・心理的負担の軽減を図ることで安定した就労を支援する。	令和5年度
4	東大阪市	中河内地域若者サポートステーション事業	就職氷河期世代を対象に、心理相談や職業体験、セミナー、イベント等を通じ就労を支援するとともに、職業体験の受入れ事業所の開拓を実施する。	令和5年度

【参 考】

地域就職氷河期世代支援加速化交付金事業一覧

No	実施主体	事業名	事業の概要	計画期間
1	大阪府	就職氷河期世代集中支援プロジェクト事業	就職氷河期世代のうち、主に長期無業者の方を対象に、OSAKAしごとフィールドと連携し支援対象者の掘り起こし、就業に向けた研修、企業とのマッチングなどを一体的に支援。	令和2年度～令和4年度
2	大阪府	住宅付き就職氷河期世代就職支援事業	就職氷河期世代の就職支援を行うとともに、府営住宅の空室を活用し、入居者同士のコミュニティ形成などを通じて社会人基礎力の養成や定着支援を実施する。	令和2年度～令和4年度
3	大阪市	しごと情報ひろば総合就労サポート事業 (就職氷河期世代への就労支援)	求人を開拓するため、個別企業へのアウトリーチを強化するとともに、就職氷河期世代向けの国の各種助成金の案内及び、申請事務に係る支援などにも踏み込んで実施。並行して、窓口相談において求職者の職業志向の拡大にも注力。	令和2年度～令和4年度
4	泉佐野市	地域課題解決型就職氷河期世代就労支援事業	就労になんらかの困難を抱え、伴走型の支援を必要とする就職氷河期世代の方を対象に、支援区分に応じて段階的（対人スキルの取得から請負型就労体験まで）な支援を実施する。	令和3年度～令和4年度
5	堺市	堺市ユースサポートセンター (堺サポステ) 事業	就職氷河期世代の当事者や家族の希望に応じ、求職活動へ踏み出すための支援や就労及び就労後の職場定着にむけた支援等を行い、就労その他の職業的自立支援につなげる。	令和3年度～令和4年度
6	堺市	ひきこもり生活実態調査事業	複雑化、複合化している「ひきこもり」、「8050」などの課題に対応する包括的な支援体制の構築のため、ひきこもり支援対象者の実態やニーズを把握する。	令和3年度～令和4年度
7	枚方市	奨学金返還支援補助事業	就職氷河期世代を対象に奨学金返還支援を行い、社会参加や就労に向けた活動のネックとなる経済的・心理的負担の軽減を図ることで安定した就労を支援する。	令和4年度
8	八尾市	就職氷河期世代マッチング支援事業	就職氷河期世代のうち、就労意欲があり、現状より良い処遇を目指している方を対象に、事業所魅力発信兼疑似職場見学・体験動画を作成した上で、面接会を開催し、マッチングを図る。	令和4年度
9	和泉市	就職氷河期世代活躍支援事業	就職氷河期世代を対象に、社会人基礎力や就活スキル向上のための研修を実施し、研修後に就職支援、職業紹介を行った。	令和4年度
10	東大阪市	中河内地域若者サポートステーション事業	就職氷河期世代を対象に、心理相談や職業体験、セミナー、イベント等を通じ就労を支援するとともに、職業体験の受入れ事業所の開拓を実施する。	令和4年度